聴覚障害リハビリテーション治療学特論

［講義］　第１・２学年　前期　選択　2単位

《担当者名》才川悦子　saikawa@hoku-iryo-u.ac.jp

【概　要】
　高度臨床専門職として必要とされる聴覚障害の評価、リハビリテーションを系統的に学習し、臨床に応用できる理論的基盤をつくる。

【学修目標】
一般目標：聴覚障害の基礎知識、評価方法、および治療について体系的に学び、質の高いリハビリテーションを展開するための理解を深めることを目標とする。
行動目標：
1．純音聴力検査を高精度の臨床的技術として活用する方法を説明できる。
2．成人に対して行われる聴覚検査全般について理論的に熟知し、臨床的意義づけを説明できる。
3．小児に対して行われる聴覚検査の臨床的意義づけと、発達心理的側面について説明できる。
4．補聴器を用いた聴覚補償の方法を、小児、成人それぞれについて説明できる。
5．人工内耳のリハビリテーションを、マッピング機器の操作と聴能訓練それぞれについて説明できる。
6．小児難聴と言語発達の関係を熟知し、理論的に構築された聴能言語訓練の方法論を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	講義の概要、学習目標・概要、スケジュール、学習方法の説明を行う。	才川悦子
2〜8	聴覚障害評価法	聴覚障害を正しく診断・評価する手法を学ぶ。 疾患の臨床像を理解する。 小児の聴覚障害と言語発達との関連を学ぶ。	才川悦子
9〜15	聴覚補償	補聴器・人工内耳による聴覚補償について工学的側面と聴覚生理的側面から理解する。 難聴のハリビテーション・リハビリテーションを科学的に行うための理論的基盤をディスカッションにより確認する。	才川悦子

【授業実施形態】
面接授業と遠隔授業の併用
※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】
レポート　100%
提出後に教員とのディスカッションによるフィードバックによって理解を深める。

【教科書】
特に指定しない

【参考書】
小寺一興：補聴器フィッティングの考え方．診断と治療社．2010
日本聴覚医学会：聴覚検査の実際．南山堂　2017

【学修の準備】
予習は、関連の文献等関係資料を各自調査し学習すること（80分）
復習は、プリント、講義メモを活用して学習を深めること（80分）

【実務経験】
医師

【実務経験を活かした教育内容】
医療機関における臨床経験および大学における教育・研究経験をもとに講義・指導する。